

平成28年度第2回熊本県公立大学法人評価委員会 議事要旨

- 1 日 時 平成28年8月8日(月) 13:30~14:40
- 2 場 所 県庁本館5階 審議会室
- 3 出席委員 小野委員長、久峨委員、高木委員、縄田委員、元山委員
- 4 議 題 (1)平成27年度業務実績評価について
(2)第3期中期目標策定方法案について
- 5 会議の内容

(1)平成27年度業務実績評価について

【主な質問・意見とその回答】

委員発言、○事務局発言

(17)のもやいすと育成システムにかかる評価尺度について評価を追加したが、これは、進捗状況がこの実績報告書からは読み取れず、完成して実施段階に入っていると思ったからである。もやいすと育成というのは、その成長は目に見えないものなので、学修評価は教育効果の検証としても非常に重要になってくると思う。

評価については、今回は見送り、平成29年度の完成を確認してから評価することでよいと思う。(他の委員も賛同)

(18)の総合管理学部の改組について、大学側から一定の評価に値するのではないかという意見がある。本当の成果は学生が集まるかどうかだが、そこにいくために一生懸命努力していることを評価してもよいのではないか。(他の委員も賛同)

(15)及び(44)の就職率の関係で、就職後のモニタリングについて、就職のミスマッチの比率を調べるという目的もあるが、それ以外にも、女性の労働参加の実態を把握するためにもデータを取ることが必要だと思う。少子高齢化の影響による労働力不足を補うため、女性の労働参加が必要である。日本は、結婚し出産して仕事を離れ、それを機に女性の就業率が下がっていく。また、女性の管理職登用率を上げることも必要とされている。そういう背景を踏まえて、卒業後の数年ではなく、長い期間モニタリングをして、データを取ることが必要だと思う。

なぜ女性社員が辞めてしまうのか企業側も検証できていない。モニタリングをする一方で、企業側への働きかけも行ってはどうか。

資料1-3業務実績評価書(案)の2ページの財務に関する評価コメントに、赤字の理由は学内情報システムの減価償却費と支払利息とあるが、第1回評価委員会の資料によると、損益計算書の費用で突出していたのは退職金だったように思う。

収益面をみると、検定料収益や入学金収益が減っている。これも赤字の要因ではない

か。

単年度でみると退職金の増加が挙げられるが、退職金は毎年退職者数に応じて変動するものであり、県から交付する運営費交付金の算定基礎に組み込まれているものである。これまでも退職金が多額になった年があったが、大学はそれを見込んで予算を組み立て健全な経営を行ってきた。しかし、平成27年度は、学内情報システム整備に伴う「費用」が膨らみ、それを退職金増加が後押ししたような形になった。このため、損失が生じた主たる要因は学内情報システム整備であると捉え、コメント案を提案した。

今回いただいた意見を参考にして、評価コメントの文言を修正させていただきたい。

同じく資料1-3業務実績評価書(案)の1ページの研究についての記載部分に、「科学研究費補助金は、3年連続で教員の応募率100%を達成し、研究にかかる自己収入の確保にも努めている」とあるが、「個々の研究費の確保にも努めている」という表現でよいのではないか。

事務局は、本日の各委員からの意見を踏まえて業務評価書(案)を修正し、修正した業務評価書(案)の確認は、委員長に一任することとなった。

議題 (2) 第3期中期目標策定方法案について

【主な質問・意見とその回答】

委員発言、 ○事務局発言

資料2-1の2第3期中期目標策定の考え方に、「ゼロベースから作成するのではなく」とあるが、現中期目標を策定した6年前とは経済情勢もずいぶん変わっており、大学に求めるものも変わってきている。熊本地震からの復興のこともあるだろうし、内容が現中期目標とは随分変わるのではないか。

事務局提案どおりで承認されたが、大学を取り巻く環境の変化や、熊本地震からの復興等も十分考慮しながら検討を進めるよう意見があった。